

氏名	石 津 秀 樹
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第3086号
学位授与の日付	平成9年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Glial tangles in Pick's disease (ピック病のグリア内封入体)
論文審査委員	教授 庄盛 敏廉 教授 徳永 勲 教授 小川 紀雄

学位論文内容の要旨

臨床病理学的に診断された9例のピック病患者脳を検討し、7例にリン酸化tau陽性グリア内封入体を認めた。オリゴデンドログリア内封入体(OFT)はコイル状、波状、球状の形態を示し、主に大脳白質に観察された。また、アストロサイト内封入体(AFT)は、刺状もしくは花冠状で大脳皮質に観察された。OFTの電顕的検討では3種類の線維構造が認められた。第1は、直径約15nmの束状の直細線維で横断面では中心に芯がみられ、第2は光顕上の波状OFTで、最短径11nmから最長径22nm、長さ約200nmの周期的狭窄を持つ細線維で緩やかに束を形成する。第3は光顕上は球状のOFTで、直径15~25nmで不規則に交叉する細線維構造を示した。AFTは15nmの直細管から構成されていた。以上の研究の結果はOFT、AFT、ピック球はそれぞれが異なった病理学的構造を示し、ピック病では神経細胞のみならずグリア細胞においても一次性的変性が生じていると考えられた。これらグリア内封入体の検討はピック病の病因、病理診断、亜型を考える上でも重要な示唆を与える。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はピック病患者脳を病理組織学的に研究したものであるが、従来注目されていなかったグリア細胞の病変、すなわち大脳皮質におけるアストロサイト内封入体と大脳白質におけるオリゴデンドログリア内封入体を初めて発見し、これらの変化が必ずしも二次性的なものではないと示唆する、というピック病の病因論に新たな視点を加える重要な知見を得たものとして、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。